

平成 29 年度 第 1 回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成 29 年 6 月 1 日 (木)
開会 午後 2 時 00 分 閉会 午後 3 時 25 分
- 2 場 所 志布志市役所 本庁 2 階 庁議室
- 3 報 告
 - (1) コミュニティ・スクールの取組状況と今後について
 - (2) 小中一貫教育の取組状況と今後について
 - (3) 学力向上の取組について
 - (4) 道徳教育の取組について
 - (5) 全国学力・学習状況調査結果の公表の在り方について
- 4 協 議
 - (1) 鹿児島大学と連携した取組について
 - (2) 志布志市における児童生徒への支援体制について
- 5 出席者 (出席構成員)

| | |
|-----------|-------|
| 志布志市長 | 本田修一 |
| 教育委員長 | 松原治美 |
| 教育委員 | 飯野直子 |
| 教育委員 | 津町千代子 |
| 教育委員 | 島津陽亮 |
| 教育長 | 和田幸一郎 |
| (事務局) | |
| 副市長 | 外山文弘 |
| 副市長 | 岡野 正 |
| 総務課長 | 武石裕二 |
| 総務課長補佐 | 黒石直也 |
| 総務課人事厚生係長 | 吉原直人 |
| 教育総務課長 | 徳田弘美 |
| 教育総務課長補佐 | 鎌下秀樹 |
| 学校教育課長 | 福田裕生 |

学校教育課参事兼指導係長 福留健之
学校教育課参事 梶原 淳
生涯学習課長 若松利広

5 会議の経過

午後 2 時 00 分 開会

○ 開会

【黒石総務課長補佐】 皆様、御起立ください。

ただいまから、平成 29 年度第 1 回志布志市総合教育会議を開催いたします。「一同礼」 御着席ください。

改めまして、皆様こんにちは。本日進行を務めさせていただきます総務課長補佐の黒石でございます。

よろしく願いいたします。

本日は、御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、本田修一市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長あいさつ

【本田市長】 皆様こんにちは。本日は平成 29 年度第 1 回志布志市総合教育会議を開催しましたところ、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から教育行政の推進につきまして、格別なる御理解と御協力を頂いておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議につきましては、平成 27 年度から設置開催しているところですが、昨年度、平成 28 年度におきましては、タブレットパソコンの導入、コミュニティ・スクール、小中一貫教育に向けての取組などについて、委員の皆様方と議論させていただきました。

本日は、これまで実施してきましたことに関する現状の報告と、また、協議の議題として、鹿児島大学と連携した取組についてと、

志布志市における児童生徒への支援体制について意見交換を行いたいと考えております。

先日、市P連の総会で発言させていただき、少し話し過ぎたかなと思いましたが、私としては日頃から考えている心情を吐露したものであり、それを役員の方々や教職員の方々がどのように捉えられたかはわからないところです。

学力向上日本一のまちを作ることを掲げている私としましては、現状を踏まえて、もっと志布志市の市民の方々、保護者の方々、教育関係の専門の方々においては自覚を深めていただき、向上に努めてもらいたいと思っています。

和田教育長をはじめ、教育委員会の先生方におかれましては、教育委員会として、事業に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

まだまだ、道遥かということで、恐れず、ひるむことなく着実に一歩ずつ積み重ねていくということをしていただければ、いつの日か実現するのではないかと考えております。

本日の総合教育会議においては議論を深めていただければ思っておりますので、限られた時間となりますが、よろしく願いいたします。

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第3 報告に入りたいと思います。

報告については、5つまとめて報告をお願いいたします。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 まず最初に、コミュニティスクール関係についての報告です。資料の2ページをお開きください。

昨年度、モデル校として志布志中学校、伊崎田小学校、原田小学校の3校に取り組みを始めていただきました。

最初なかなかどういった活動をしたらいいのかわからない状況でしたが、1年間活動していく中で非常に充実してまいりました。伊崎田小学校においては、伊崎田小・中と校区が一体となった学校行事等の活性化、原田小学校においては、地域住民と一体となって子どもに充実した活動を行わせるには何かないだろうかといっ

たことを考えながら、太鼓集団の創立を行いました。志布志中学校においては、生徒指導上の大きな問題があった関係で、そういったことが協議されることもありましたが、ライフスキル教育について学校運営協議会の委員の方々の協力を受けながら進めてきたところ です。年度末には、導入前の小中学校の委員、管理職の方を交えた研修会を行いました。それによりまして、本年度、平成 29 年度から 行う活動についてもお互い共通理解が出来て、今年新たに 9 校がこの 制度を取り入れてスタートしています。

なお、コミュニティスクールについては、大分大学の梶原敏明先生をアドバイザーとしてお願いしています。今年度も年 2 回の研修 やフォーラム等への参加を通じて、さらに充実した活動になるもの と考えているところです。

来年度、平成 30 年度には、市内全小・中学校でこの制度を取り入 れる予定でございます。

コミュニティスクールについては以上です。

【本田市長】 一つ質問してよろしいですか。

平成 29 年度で全小中学校が導入ですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 平成 30 年度から全小中学校導入です。平成 28 年度は 3 校、平成 29 年度は 9 校、平成 30 年度から残りの学校を含 めて全小中学校でスタートする予定です。

【本田市長】 志布志中学校の取組はどうなっていますか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 志布志中学校も今年 2 年目になりますが、昨年 度はライフスキル教育という子どもたちの生き方教育を学校運営 協議会の委員の方がお手伝いいただき、子どもたちへの授業に参加 していただいたり、職員研修の講師役を務めていただいたりするこ とで充実してきたということです。

【本田市長】 先生たちに対する研修ですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 先生たちにも研修会を実施しています。

【本田市長】 運営協議会の委員にも同じように研修会を実施したのですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 委員も一緒に参加して研修しています。

【本田市長】 資料2ページの「社会総掛かりによる教育を」とありますが、この言葉は以前から使用されている言葉ですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 このコミュニティスクールにはこの言葉が使われています。

【本田市長】 この「社会総掛かりによる教育を」は、運営協議会の委員には認識されていますか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 年度当初にも説明会を実施しており、会の中では必ず教育委員会も参加しながら、常に説明をしつつ、質問等があればその都度答えながら実施しています。

【本田市長】 委員の方々と学校側とは連携できていますか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 特に原田小学校、伊崎田小学校、志布志中学校と昨年度から取組を始めたところについては、最初はぎこちないところはあったかもしれませんが、途中からは一体となって実施できています。

【本田市長】 学校評議員制度がありますが、それとの違いは認識されていますか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 そこが一番大事なところですので、学校評議員と運営協議会の委員が異なることを説明してきています。

一定の権限と重要な役割を担っていただきながら、責任を持って

やっていたかかないといけないことを説明しています。

【本田市長】 その成果が志布志中学校で出れば、ありがたいですね。

【梶原学校教育課参事】 それでは資料3ページをお開きください。

小中一貫教育の取組と今後について報告します。

小中一貫型小中学校の先行モデル校として、昨年度総合教育会議や定例教育委員会等や保護者の意見等を踏まえて、伊崎田小学校と伊崎田中学校を小中一貫型小中学校とすることを決定して、現在進めています。

先ほどコミュニティスクールの中でもありましたが、アドバイザー・有識者として、大分大学の梶原先生にも立ち上げから依頼をしており、志布志市小中一貫教育推進協議会のメンバーとしても意見をいただく形で、スタートしたところです。この志布志市小中一貫教育型小中学校の形態がどういったものかは、資料3ページの2番目に掲載していますが、この太線の枠内がその形態となっています。

昨年の4月1日からこの形でできるということになり、資料3ページの項目2の一番右側の義務教育学校と形態が似ているため勘違いされますが、大きな違いは修業年数と組織、条例化なのか規則化なのかなど違いがあります。本市は小中一貫教育型小中学校で、平成30年度から伊崎田小学校・中学校の開校に向けて進めているところです

3番目の項目で、志布志市小中一貫教育推進協議会の設置ということで、委員を10名選出しました。会長には伊崎田中学校の学校運営協議会の代表を選出しています。副会長には伊崎田小学校の学校運営協議会の代表を選出しています。10人の委員で進めていきたいと考えています。第1回目は先日5月23日に開催しましたが、主に大分大学の梶原先生から大分県の取組を含めて全国的な取組と制度の説明をしていただきました。特に地域とともに作り上げることでオンリーワンの教育が実現するということで、校区をあげて、先ほどありましたコミュニティスクールとも切り離せない関係でもありますので、連携しながら学校づくりを進めていきたいと考えています。今後もあと5回、会を重ねながら平成30年度の開校を

向けた取組を進めていきたいと考えています。

【本田市長】 資料3ページの中の「小中一貫教育を規則で定める」とありますが、まだ定まっていないということですか。

【梶原学校教育課参事】 まだ規則では定まっていません。

【本田市長】 モデル校で推進しているということですか。

【梶原学校教育課参事】 そういことです。設置協議会の規則だけ定めています。学校自体の規則について今後定めていく予定です。

【本田市長】 1年かけてモデルを実践していきながら、実践の内容でもって規則としていくということですか。

【福田学校教育課長】 市の教育委員会規則においては、伊崎田小学校・中学校を小中一貫型小中学校とするといった旨の文言を追加していかなければならないということです。その内容は、平成30年4月1日からそのような形の学校になりますというものです。今年1年は今申し上げたように、規則化をしたり、教育課程の整理をしたり、第1回の会議でも話題になりました名称をどのような形で外向けの名称として使っていくかなど整理しなければならないことが出てきますので、それらを整理していく1年として進めていく予定です。

【本田市長】 資料3ページに伊崎田学園という言葉が出てきますね。

【梶原学校教育課参事】 これは仮の名称です。

【本田市長】 運営協議会においても伊崎田学園としたいと意見が出ているわけですか。

【福田学校教育課長】 伊崎田学園という愛称で呼ぶのもどうだろうかという声は出

ています。正式な名称で言いますと、志布志市立伊崎田小学校、中学校ですが、小中一貫型の学校とすることをイメージとして、外にアピールしたりとか、生徒や地域の方に意識してもらうために冠名として伊崎田学園という名称をつけるというのはいいことではないかといった声が出てきておりましたので、それらについては今後さまざまな方面からのご意見をいただきながら、審議を続けていきたいというのが、これまで第1回の会議で出てきたところです。

例えば、鹿屋市の花岡小学校、中学校は独立した学校ですが、いわゆる小中一貫型の学校で、愛称として小中一貫校花岡学園という名称で呼ばれています。

【本田市長】 規則で定めると先ほど出ましたが、何を定めるのですか。

【福田学校教育課長】 小中一貫型の小・中学校となることを定めると理解しています。そのことはさらに深く研究しながら進めていく予定です。

現在の規則では小・中学校を設置するとあります。

【本田市長】 小中一貫型小・中学校と規則に定めるということですか。

規則を定められたら、当然実施していくためのマニュアルなど別途細則などが定められるでしょうから、モデル校と実践するためにそれを今後は作っていくということですか。

それはどういった方向性で進めるのか、見えないものだから示してもらいたい。

例えば、資料にオンリーワンの教育を目指したい、英語教育の導入、発達の早期化などとありますが。

【和田教育長】 市長が今疑問に思われていることは、規則の中にもっと盛り込まれていくのかということですか。

【本田市長】 具体的に実際どういった教育をしていくのかをどういった定めで進めていくのか、規則ではなく要領などで定めていくのかということです。

【福田学校教育課長】 細則や規則ではなく、教育課程、カリキュラムの中でどういった教育を行っていくのかを整理していくことになるかと思えます。

1年生から9年間を通した教育課程になっていく予定ですので、その中において途中で区切りめいたものを意識した教育課程にしていくのか、また、今それぞれ校歌がありますが、それらをどのように取扱うのかや、別に愛唱歌を作るなど、こうあるべきというものはありませんので、アイデアを出しながら、より良いモデルとなるものを1年かけて準備し、その後も年次的にいろいろ改善を重ねて、さらに良いものにしていくというスタンスで考えています。

【松原教育委員長】 資料の項目3の枠内は、第1回目の会議の概要ということですね。こういう形で動き出した中において、今ここまで論議されているということがこの枠内に示されているということですね。

【本田市長】 こういった方向に進むのかなと考えた時に、規則でどういう形で定めていくのか、さらに定めたことの進め方は何で決めていくのかはこの資料ではわかりませんが、モデルとして始めたばかりなので、そうだと思いますが、資料に伊崎田学園と出てきたため、ここまで進んでいるのかと思ってしまいました。

【松原教育委員長】 1つの意見ですね。

【福田学校教育課長】 1つの意見として出たものです。

第1回目の会議では、そういったことも考えられるのかという意見として出てきたものです。

【本田市長】 あまり進めたくない内容は記載されないと思いますので、記載されているということは進めたいことの表れだと思います。

【松原教育委員長】 大きく論議されたということですよ。

【福田学校教育課長】 会議当日は、大分大学の梶原先生の講話が45分ほどあり、その他に委員長選出などがありました。

意見として出たものが資料のとおりです。

【本田市長】 進んでいるなと思うところでした。飯野委員はどう思われますか。

【飯野教育委員】 伊崎田学園という名称になったのか、意見が出たので、記載されていると理解していました。伊崎田という言葉を残したいということが出席者の意見だと思いました。

伊崎田という地名をアピールしたいから、伊崎田学園という言葉が出たんだろうと思いました。

【和田教育長】 別に名称を変えなくてもいいわけです。市立伊崎田小、中学校のままだでもいいんですが、小中一貫で取り組んでいることをよりアピールするためには何か名称を考えて、横断幕でも作って進めていく方がいいだろうということで、名称が出たわけです。伊崎田学園とした方がインパクトも強いだろうということで出たものだと思います。

【本田市長】 地域の皆さんも前向きに進めていこうということを感じることができました。

是非このような形で進めていただきたいと思います。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 それでは、資料の4ページの学力向上の取組について説明します。

項目1は昨年度の全国学力・学習状況調査の結果について、小学校については、国語・算数とも地区とは、ほとんど差がないところまでできていますが、県、全国とはまだ差がある状況です。

中学校については、小学校よりも課題があるようです。なかなか地区に追いつけない状況です。本市の教育振興基本計画では、29年度、本年度は県平均を上回り、平成30年度は全国と同程度とな

ることを目標としています。各学校に平成 29 年度は目標に近づくように頑張りましょうと取組をお願いしています。また、その結果は 8 月、9 月に出るわけですが、各学校これまでよりも本気度が高い真剣な取組をしていますので、昨年度よりも期待が出来ると思っています。

資料 5 ページをご覧ください。本年度は各学校にのぼりを設置していますが、「そろえよう」をキーワードに各学校でさまざまな取組を行っています。学力面においても、生活指導面においても、とにかく学校全体が思いを一つに取組んでいこうということで一生懸命取組んでいるところです。

学力向上については、今年度新たな取組として鹿児島大学の知的・人的資源の活用ということで、連携協定を締結しました鹿児島大学、特に教育学部と連携を深めながら、今年度教職員の授業力の向上、資質向上、また大学生にも協力いただきながら授業参観、夏休み学習教室等での学習指導も計画して進めています。すでに事業がスタートしているところですが、大学の先生方や学生の皆さんに授業について深く観察してもらっています。それが教職員へのフィードバックとして、とてもきめ細かく行われています。それらを基に各学校の先生方も授業改善に取り組んでいるところです。

こういったことが総合的に市の教育の底上げにつながるのではないかと期待しているところです。

【本田市長】 5 ページの表の右側の下の「スポーツ少年団の適正化」とありますが、この内容を教えてください。

【若松生涯学習課長】 スポーツ少年団の適正化については、週 3 回の活動として欲しいということと、第 3 土曜日は青少年育成の日として大会等を実施しないことをお願いしているところです。

部活動は週 3 回の 2 時間以内でと各スポーツ少年団に総会等をお願いしているところです。

【本田市長】 実施率はどうなっていますか。

【若松生涯学習課長】 各スポーツ少年団において若干異なりますが、ソフトボール少年団においては第3土曜日はすべて大会は実施していないと聞いていますが、他には県内でそれぞれ各地区の大会があり、そこに参加をしているところもあるようですので、スポーツ少年団、指導者会、育成会の総会において、計3回、第3土曜日の大会実施の自粛を要請したところですが、実施率についてははっきりしたものは出ていない状況です。

【本田市長】 スポーツ少年団の適正化と掲げていることについて、異論はなかったですか。

【若松生涯学習課長】 毎回、掲げることについては総会等で話していますので、異論はないところですが、実施率が伴っていないのが現状です。

【本田市長】 現況としては厳しい状況ですか。

【若松生涯学習課長】 今のところはまだまだの状況です。

【本田市長】 どうすればいいと思いますか。

【和田教育長】 少年団のチームが強くなればなるほど、土・日曜日にいろいろなところに呼ばれて子どもたちは月曜日ぐったりしています。スポーツ少年団のやり過ぎは、これまでも問題になっています。これは少年団の指導者の理解がないとなかなか進まないと思います。保護者も強くなればなるほど、また力をいれて応援してしまう状況です。なかなか難しい状況です。

【本田市長】 少なくとも、総会等ではスポーツ少年団の適正化に対する異論は出ていないわけですね。

【和田教育長】 ないです。

【松原教育委員長】 このことについては、マスコミでもいろいろ話題になっていま
すね。やり過ぎではと。報道されるようになって、保護者もやり
過ぎかなという感覚を持つようにはなったのでは。
スポーツ少年団での時間を学力向上の時間にとということですよ。

【本田市長】 はっきりとは言いにくいですが、狙いはそこです。あまりスポー
ツ少年団で体力を使わずに、勉強に集中できる体力は残して欲しい
と思っています。年中スポーツ少年団、部活動で疲れてしまっは
困るよということです。
部活動はどうなんですか。

【梶原学校教育課参事】 部活動は原則土日のいずれかを休みにするようにしていま
す。もし、大会等が入った場合は平日を休みにするというのを全
学校で実施できています。

本年度は特に土日のいずれか1日及び平日を含めて週2日、休日
を作ることを徹底してくださいと各学校に要請しています。

【本田市長】 現状としては、学校がある間は毎日部活動をしているわけす
ね。

【梶原学校教育課参事】 土日のいずれか1日は必ず休むということは徹底できてい
ます。

【本田市長】 時間の制限はしているのですか。

【梶原学校教育課参事】 あります。夏場の今の時期が一番長くて、だいたい6時半ま
で、冬場は5時20分くらいまでになります。正味1時間ない状
況です。

【本田市長】 ただ、大会で優勝しようと思えば、時間が少ないでしょうね。朝
練もあるんですよ。

【梶原学校教育課参事】 朝練を実施している学校もありますので、あまり過度にならないよう心がけるよう伝えています。

【本田市長】 夕方に時間制限があれば朝練をしますよね。保護者も朝練をすれば安心するでしょうね。

【和田教育長】 有明中学校は毎日やっていると思います。陸上部、野球部がやっています。

【本田市長】 4ページに戻りますが、中学校の県との差は厳しいですね。先日ありました市P連の懇親会の場で潤ヶ野小、森山小、田之浦小の特認校は全国平均突破しますと言われていました。それは今年度のことですか。目標年度はいつなんですかね。

【福田学校教育課長】 3校については、県・全国を上回っている学校もあります。

【本田市長】 3校とも上回ったということになれば、すごいことですね。

【福田学校教育課長】 3校の本年度の結果については手元にありませんが、おそらく全国に近いか、超えているかだと認識しています。

【本田市長】 3校とも上回ったということになれば、大きくその他の各学校に宣伝して、刺激剤にしてください。そうすれば、各学校、うちもと思っただけ頑張ろうとなると思います。

特認校になって、潤ヶ野小も17人程度になっていますよね。

【和田教育長】 24人です。

【本田市長】 そこまで増えているんですね。

【松原教育委員長】 低学年が増えています。

【本田市長】 成果が出るとはっきりわかったら、まだまだ増えると思います。

【松原教育委員長】 平成 31 年度には全国平均を上回る目標になっていますよね。それで県を上回ると言っている場合ではないと思います。ただ、現在「そろえる」ということを掲げて、全学校で全国を上回ることを目標としているわけですので、最近変わってきたと感じています。学校訪問した際に、ある学校では全国を上回ることを単年度の目標に掲げていました。

【本田市長】 はっきり打ち出していたんですか。

【松原教育委員長】 打ち出していて、結果が出てみないとわかりませんが、上回ることを狙って取組んでいますということでした。少なくとも、それに近づけるという目標を掲げて、全学校が取組んでもらいたい。資料にあるように全教科、全国平均とありますが、全学校、全教科、全国平均としないと意味がないのではないかと思います。

ある学校でも本気度が上がってきています。他の学校でも同程度まで上がってきている学校もあります。今回の資料は 28 年度分ですので、29 年度の結果は期待できるのではないかと思います。29 年度がだめでも、30 年度には相当期待できるのではないかと思います。

B 問題もあと 1、2 問だと思いますので、届かない夢ではないと思います。各学校、自信を持って取り組んでいると思います。そういう状況であることを市長にお伝えしたかったところです。

【本田市長】 全体的に高まっているという状況ですので、3 校についてはしっかり結果を出してもらいたい。3 校については対象者が少ないと言われるかもしれませんが、これまで達成できていないわけですので、目標を掲げて達成できたことを他の学校にも伝えて、学校運営協議会でも協議していただき、地域で盛り上げていこうという方向に持っていつてもらいたいと思っています。

【梶原学校教育課参事】 それでは、6ページをお開きください。道徳教育の取組について報告します。

道徳教育総合支援事業について、県から指定されて3年目になります。本来2年間の事業でしたが、3年目に突入している背景としましては、項目1の(1)目的にもありますが、大きく2つあります。1つは「志の心」を育んでいく必要があるということです。もう1つは平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で道徳が教科化されるため、その研修を深めていく必要があるということで3年目になっています。主な事業としましては、(2)事業内容のア、イに掲げています。教育委員会として道徳教育の推進ということで、志エッセイコンテストとエッセイ集の活用と、そして、郷土読み物資料集「志のこころ」の活用ということで、27年度に作成した資料を道徳の授業及びいろいろな場面での活用やどのような活用があるかの研修も含めて進めていく必要があると考えています。また、志アップ教育講演会の実施や学校と家庭・地域との協働体制の確立も考えています。

この協働体制については、資料8ページをお開きください。8ページのこの「志の心」を育むためにを全家庭に配布しています。教育委員会のキーワードとして大きく3つ、特に学校では「そろえよう」という言葉をキーワードとして進めていますが、同じく家庭では「語ろう」、地域では「触れ合おう」というキーワードを基に具体的な例を示しながら、地域、家庭、学校で志の心を育んでいきましょうという取り組みにつなげていきたいと考えています。

資料6ページに戻ってください。(2)のアの(オ)になりますが、道徳教育推進教師等研修会も今年度開催していきます。

これらの提言、読み物集の活用方法もですが、平成30年度から特別教科道徳が開始されますので、その取り組みについて研修を深めて行きたいと考えています。また、イの方では、学校において、どのように推進していくかを記載しています。(ア)は先ほどから出てきていますが、あらゆる場面において「そろえる」を実践していくことを徹底していくことで志の心を育むことに結び付けてい

きたいと考えています。(イ)に記載していますが、道徳教育実践モデル校ということで松山小学校と宇都中学校を指定しています。これに関しましては大隅地区の指定も兼ねていまして、来年度、この2校については公開授業という形にもって行きたいと考えています。また、(ウ)の特色ある体験活動による道徳性の育成として、地域の素材である人材、文化財等の活用も考えています。最後に(エ)のしぶしの日の取組として各学校でいろいろ取組を行っており、その例として資料7ページになりますが、小学校のさんのもので小学校の取組の「しぶしのいいところを教えてね」ということで、これだけ挙げています。

皆さんから見れば、なるほどと思うことだと思いますが、いいところを書くようお願いして、小学校 年生がここまで書けるのかというくらいしっかり書いてあります。こういうことをどんどん広めていけたらと考えています。

【本田市長】 6ページの(イ)の志のこころの活用ということで、中学校の読み物として、「白銀堂物語」とありますが、この物語の動画を作成したのですが、皆さん見ましたか。

その動画は小中学校に配布するとなっていたと思うのですが。

【梶原学校教育課参事】 配布はまだないと思います。学校でも見られるかと思いましたが、学校の方は「YouTube」が見られない状況でしたので、業者に言って見られるようにという動きをしているところです。

【本田市長】 今からみんなで見ようと思いますので、準備をしてください。

【松原教育委員長】 この本はいつ出たんですか。

【梶原学校教育課参事】 27年度です。

【和田教育長】 松山、志布志、有明から1つずつ教材として出しています。

【松原教育委員長】 このうち志布志の分である「白銀堂物語」の動画が出来ている

ということですね。

白銀堂物語の動画鑑賞 約 20 分間

【福田学校教育課長】 資料 9、10 ページをお開きください。全国学力・学習状況結果の公表の在り方について報告します。

本市におきましての公表の在り方は特に 4 項目でまとめています。1 点目は数値化して公表する際の配慮です。個人の特定につながるような状況にあつては、自校の結果を数値化し、本市、本県、全国と比較して公表してもよいということで各学校には伝えているところです。しかし、数値が公表されるとそれが一人歩きして、本来の趣旨から離れていく傾向も懸念されますので、教育過程を大切にするという本来の目的を損なうことがないように配慮するようになっています。

2 点目は、結果を生かした具体的な取組ということで、児童・生徒一人一人のつまずきをどの時点でどのような形でつまずいているのかをしっかりと分析し、そのことに対する回復指導や教員の授業の改善、学校・家庭・地域が一体となった教育改善につながるような取組を絶えず工夫し、分析結果から課題が浮かび上がった場合には関係機関との連携を図りながら、その解決・改善に向けた取組を推進するようになっています。

3 点目は、多角的、多面的な見方・評価の重要性という視点です。この全国学力状況調査は小学校 6 年生と中学 3 年生と限られた学年が実施母体であつて、教科についても国語と算数・数学に限られているということです。また、出題も国語と算数・数学の限られた分野のみであります。したがって、この調査によって測定できるのは「学力の特定の一部」に過ぎないということを十分理解した上で、個人や母集団が特定の部分により評価されることがないように、当該測定値と併せて多角的・多面的な見方や評価が重要であることについて十分認識しておく必要があります。

4 点目は、新たな意欲や信頼感の創出ということです。各学校で公表する際には、調査の趣旨、意義、結果の見方や学校としての対

策を保護者や住民に知らせると同時に、児童生徒はもちろんのこと、保護者や関係者が公表の内容によって新たな意欲を抱くとともに、本人や学校の自信や安心感、学校教育に対する信頼感の向上に配慮するようにと指示を出しているところです。

9ページの下、10ページにお示ししましたのは、28年度における、ある学校の公表のサンプルです。9ページの下は中学校のものです。見て、おわかりのとおり、県や全国との差を示してあります。マイナスいくらという風にお示した中で、ここまであればこういったところが劣っている、数学であればこういったところがと示して、その後本校においてはこのような課題があるので、具体的にどのような取組をしていきたいと示し、これらを学校だよりに掲載して、保護者に、そして地域の方々に公表していくということです。10ページ、これはある小学校の例です。これも学校だよりの一面を使って公表しています。以上で公表の在り方の報告を終わります。

【本田市長】 この9ページの1番の(4)の中で、各学校でそれぞれ認識を深めていただくことは大切だと思いますが、その上で、地域全体でこういった風に協力できるか考えていくことになると思います。
では、次に行きたいと思います。

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第4 協議に入りたいと思います。

協議の進行につきましては、設置要領の規定に基づいて、市長が行うようになっておりますので、進行については市長よろしくお願いたします。

【本田市長】 まず、鹿児島大学と連携した取組について、説明をお願いします。

【福田学校教育課長】 それでは、資料の11、12ページでございます。

先日、鹿児島大学と連携協定を締結したところでございますが、そのことありまして、教育委員会としましては、鹿児島大学の教官の知的な財産を本市の教育充実のために活かしていこうということ、学生の活力も本市の子どもたちに活かすことができないか

ということで、本年度から、さらに拡充するという形で事業を進めているところです。11 ページには、1 番としまして授業づくり、生徒指導等アドバイザーとして、もう既にご理解、了承いただいた先生方の名前を掲載しています。1 番目の高谷先生は今年度からです。実は2月の時点で本市に来ていただいて、市の概要と学校の実情について、2日間にわたって見ていただきました。その際、学生も連れてきていただき、学生目から見る教育ということで、感じたところを挙げていただいたところです。

つい先日、高谷先生においては、安楽小学校の算数の授業研究に来ていただき、いろいろ指導をしていただきました。安楽小学校がこの秋に地区の研究指定を受け、公開研究会を行いますので、その際にも、高谷先生からの指導を受けることにするなど、継続した指導を受けるようにしています。

2 番目の、内先生、奥山先生、下古立先生、山元先生については、鹿児島大学教育学部の教職大学院の准教授の先生方です。県の職員として数年間の任期で派遣をされている方々ですので、本市とのつながりを親密に持っていただくような形で本年度からお願いしたところです。ここの4人の先生方は、国語、理科を専門とする先生方ですので、本市における国語、理科の教科の指導の在り方について、そこを中心をお願いしています。

先日、奥山先生はこちらに出向いていただき、蓬原小学校で国語を、それから翌日は伊崎田中学校、有明中学校、宇都中学校の国語の授業参観と、それを見た後の、いわゆるフィードバックを文書でしていただいたところです。

3 番目の、山本先生についてはICT教育においては全国でも非常に著名な先生で、昨年度末からいろいろとお願いしています。昨年度は情報教育の担当会にも参加していただいております。本年度もそのような形でお願いしたいと思っています。特に、小規模3校はタブレットを使ってテレビ会議等も行っていますが、この先生のお力添えあつてのことですので、本市のタブレット教育の推進については、先生のご指導をいただきながら、進めていくと期待しているところです。

4番目の、樋口先生については、外国語を専門とされる先生ですので、外国語教育で指導いただきたいと思います。

5番目の、廣瀬先生については、教育心理を専門とされる先生で、まずは8月のこころざしアップ教育講演会で教師や親が子どもとどのように寄り添って、家庭教育をすすめていくのがいいのかといった視点での講演をいただくように話を進めています。

6番目の、小柳先生については、昨年度から道徳教育について専門的な立場から指導をいただいております、志を高める教育推進協議会の委員としてもご協力いただいております。

7番目の、上谷先生については、学力全般、国語を中心にお願いしてきておりまして、確かな学力の定着に向けた検討委員会の中心的メンバーとしてお願いしてきました。検討委員会そのものは平成28年度で終了しておりますが、今年度も引き続き、さまざま場面でのご指導をお願いしています。

8番目の、有倉先生については、生徒指導を中心にお願いしています。本市のいじめ専門委員会の委員長も務めていただいております。昨年度、生徒指導上のさまざま問題がありました時にも、この先生の方でいろいろ解決することができました。

この他、現在、特別支援教育、その他教科についても専門的な知見を持った大学教官と調整を行っています。

学生の活用については、主に8月から9月にかけて学生の夏休み期間を通じて、本市の学校、夏休み学習教室、志学教室でのサポートをお願いしたいと思っています。具体的な打ち合わせについては、6月上旬から7月にかけてこちらから出向きまして、学内に貼っていただくポスターや文書の作成をこれから行っていくところです。

鹿児島大学以外の専門的な機関の先生方についても、さらに進めていこうと思っています。

冒頭で説明しました大分大学の梶原先生については、これからも小中一貫教育、コミュニティスクール関係では引き続きお願いしているところです。

中野先生については、国立教育政策研究所の総括研究官でありまして、既に本市にも何回か足を運んでいただいて、ご指導いただい

ております。魅力ある学校づくり、つまり不登校対策事業について専門的な立場からご指導いただいております。昨年度は志布志中学校についてご指導いただいたところです。

これらのことにつきましては、メディアを通じた広報活動を現在も進めているところで、その中でNHK鹿児島放送局の記者が本市の取組について非常に高い関心を示しています。昨日電話があったのですが、南日本新聞の加藤武司記者が、この方は教育を専門に取材している方ですが、大学と連携して行う6月の山重小学校の授業研究について取材依頼が来ています。

12 ページについては、ICT教育に特化した形で、これまでの取組と今後の見通しについて示しています。12 ページの真ん中から下あたりですが、情報化認定に向けた今後の目標と、昨年度途中からの取組でありましたが、半年ほどで田之浦小学校は学校情報化優良校として、昨年度は県内で1校のみ認定されました。県内で4校目の認定校です。本市はハード面が整ってきておりますので、平成30年度までにはすべての学校において情報化優良校の申請を行う予定です。

これらのことについては、委員の方々の意見、ご指導をいただきながら、さらに拡充するような方向付けをしていきたいと考えています。よろしく審議お願いいたします。

【本田市長】 それでは、何か意見はございませんか。
何か着々と進んでいるように感じます。

【松原委員長】 至れり尽くせりでどの分野もいけますという感じですね。

【福田学校教育課長】 付け加えますと、資料の1番下をご覧ください。本日、県の総合教育センターの移動講座が志布志中学校を会場に実施されています。曾於・肝属地区の先生方を対象とした講座が行われております。開講式に出席しましたが、講師を含めて18名の方々が志布志中学校のパソコン教室において1日研修を実施しています。本市の先生も6、7名参加しています。

徐々に浸透が深まっているのではと手応えを感じています。

【松原委員長】 せっかくのことですから、それぞれの先生の方々に持てる力を十分に発揮できる段取りとフォローをしていただいで、やるんであれば精一杯お願いしていただければと思います。成果を産み出してもらいたいと思います。

【本田市長】 他にございませんか。協議の1番目について以上にしたいと思えます。それでは、協議の2番目について説明をお願いします。

【福田学校教育課長】 続きまして、協議の2番目の志布志市における特色ある児童生徒への支援体制について説明します。

資料については13、14ページになります。

子育て日本一を目指している志布志市において、教育委員会として所管している支援事業といったものを整理したものが資料の図のとおりです。

既に進めている事業もありますが、本年度途中から進んでいる事業等も含めている表ですので、これを見ていただいで、皆様からいろいろとご意見等いただければ、さらなる拡充のためのいろいろな方策も立てられるのではないかと考えているところです。

この表の上の方が主に生徒指導上の支援が3つほど、さらにその下には学習上の支援として、先ほど説明しました情報教育などについて、その下には学校の教育活動全般に関する支援についてコミュニティスクールや先ほど説明しました鹿児島大学との連携について示しており、さらに右半分の上には特別支援教育への支援について、ここについては今後も厚くやっていきたいと考えております。

右下半分には、就学上の支援ということで、特認校制度、奨学金制度など現在本市教委委員会における所管支援事業を示しています。いろいろご意見等いただきたいと思えます。

【本田市長】 ではご意見等がありましたら、よろしくをお願いします。

【松原委員長】 すき間無く施策をされているなど感じます。そういった中でタブレット教育についても特別支援学級への整備もお願いしているようですが、市として予算的な配慮をさせていただいているし、志布志は他の自治体にも劣らない事業ができるというのは理解があるからだなと思います。是非一つ一つを大事にして育てていって欲しいなと思います。

【本田市長】 たくさんあり過ぎて、すごいなと思います。

【松原委員長】 よくやっているなと思います。これらの事業に予算をつけていただいているのはすごいことだと思います。

【和田教育長】 特に就学上の支援について、新しく志布志にいらっしゃった方に志布志は就学上の支援をこんなにやっているとなかなか伝わっていない部分があります。今後も啓発していく必要があると思います。福祉課や保健課で実施していて他の自治体になような支援を整理できればという思いで、今回提案をさせていただいたところです。

【本田市長】 他にございませんか。

【飯野教育委員】 このように一覧表になるとわかりやすくいいです。教育方面に手厚い支援をされているのが一目瞭然で見やすいと思います。

質問ですが、下の多子世帯給食費負担軽減事業というのは今年度からの事業だと思いますが、対象数はどのくらいですか。わかっていたら教えてください。

【徳田教育総務課長】 平成 29 年度から多子世帯給食費負担軽減事業を開始していますが、事業内容としましては市内の小中学校に同時在学している 3 人目以降の学校給食費を補助し無料化するものです。

4 月以降申請をされて補助金決定しましたのが、小中学校合計で 1 3 3 人、5, 8 2 0, 3 0 0 円ほどの補助金額となっています。

【本田市長】 どこかの町のように全員無料化できたらいいんですけどね。

【和田教育長】 南さつま市は10年間の限定のようです。

【松原委員長】 それこそ、ふるさと納税が今後もたくさん入ってくればいいですけどね。

【本田市長】 ただ、子どもたちの健全育成につながるのかなという気もしますね。

【和田教育長】 特に全員を無料化することには抵抗があると思います。
まだ、3子以降であればまだ負担軽減はいいですが、すべての子どもになるといろいろな声もあります。

【飯野教育委員】 こういう事業があれば、子どもも産みやすいと思います。こういう制度があれば、3人目も考えようかなと思ってくれるといいなと思います。

【本田市長】 他にございませんか。
それでは、協議2については以上のおりとしします。
その他、何かありませんか。
ないようですので、これで協議を終了したいと思います。

○ 閉会（黒石総務課長補佐）

それでは、皆様、長時間ありがとうございました。

これを持ちまして、平成29年度第1回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。皆さん御起立ください。一同礼。

午後3時25分 閉会

会議録署名

志布志市長 本田 修一

教育委員長 松原 治美

教育委員 飯野 直子

教育委員 島津 陽亮

教育委員 津町 千代子

教育長 和田 幸一郎